

「今日よりも明日はもっと明るい」と 誰もがそう思える会社になりたいと考えています。

従来型の見方にとらわれると
予想を外すリスクがあります。
大局を俯瞰して本質を読み取ることが大切です。

昨年、アメリカの選挙でトランプ氏が大統領に選ばれました。世界は、その結果に驚きましたが、これは従来型の判断をしている人たちが、スピードの速いグローバル化による影響を読み切れていなかったため、予想を誤ってしまったと私は思っています。

かつて中間層が豊かだった時代には「余裕」があったため、多くの人々がグローバル化を許容していました。しかし急激にグローバル化が進み、経済的に「余裕」を失った人も増えていきました。「余裕」がなくなると自分の生活を守るため、グローバル化に対して敵視する人も増えてきます。従来型の見方だけにとらわれていると、そうした水面下の変化を見逃してしまうことにもなります。イギリスのEU離脱も、同じように「余裕」のなくなった人たちが増えたことを読み切れなかった結果だと思えます。

世界経済のグローバル化そのものは止まることはありませんが、アメリカはこれまでの多国間での交渉から、国対国という2国間の交渉へとギアチェンジしようとしています。そうした変化による影響が、これからどこにどのように出てくるか、冷静に注視する必要があります。

それに対応するため、私は従来型の見方にとらわれることなく、大局的な視点から俯瞰することを大切にしています。

新技術の登場で社会や市場が
大きく変わることがあります。
その流れをうまくつかみ新需要に結びつけていきます。

これから先の変化に備え、ヤスハラケミカルでは、これまで利益を出してきたものを大切にしつつ、新たな利益を生むものを創り出すことを常に心がけています。

例えば自動車産業では今、AI技術を応用した自動運転とい

う大きな変化が始まっています。こうした大きな変化の時期は、チャンスと捉えています。

かつて腕時計にデジタル技術が応用され始めたとき、ある電卓メーカーは自社のデジタル技術で時計業界に新規参入し、大きな利益を得ました。一方でスイスでは高級時計に特化することで従来型の安価な時計と差別化し、今も高付加価値な時計を製造しています。

同じように自動車産業でも、自動運転という変化をうまくつかんで伸びる企業が必ず出てくるはずです。そうした企業の新製品に、ヤスハラケミカルの技術や製品をどうしたら役立てることができるかを、いつも考え準備しています。

変化に柔軟に対応していくためには、変化の本質を見極める視点を養うことと、変化に対して迅速かつ柔軟に対応できる体制を確立しておくことが必要です。ここ数年「人のチカラ」を伸ばす取り組みに重点を置いているのも、変化への対応力をつけるためです。

変化に対応するのも本質を見極めるのも、
「人のチカラ」です。
一人ひとりの意識を高める人材育成を
継続しています。

これからグローバルな世界で競争していくには、企業も人も、自分の立ち位置や強さ弱さを理解することが重要です。立ち位置や強さを知るには、まず「知識」を広げることが第一です。

一人ひとりの「知識」を広げるために、社員には日頃から情報量を増やすことを強く要求しています。そして興味のあることや疑問に対して、自分で調べて「知識」の幅を広げていく習慣も求めています。

それとともに、自分たちの客観的な評価を確認できるよう、教育にも力を入れています。2016年には営業力、組織力強化を目的に、営業部員を対象にした研修を行いました。^(※1)

こうした人材教育の効果はすぐに現れるものではありませんが、2010年から継続して取り組んでいることで、社員は

(※1) 詳細はP.9 特集①「営業力、組織力強化のための営業本部の取り組み」をご参照ください。

「意識する」ことができ始めていると感じています。

自分の足りていないものや弱いところは何かを「意識する」だけでも、その人は一步も二歩も前進していると思います。そして意識して「知識」を増やそうとすることで、「人のチカラ」は必ず伸びていきます。

企業が継続していくには「余裕」を持つことが必要。
よりよい明日を創るために
より強い収益構造を構築します。

冒頭でお話ししたように、「余裕」がなくなると予期せぬことが表に出てくることがあります。企業も同様に「余裕」を保持しながら経営することが大切です。

企業を安定して成長させるためには、効率的な生産システムの構築と、利益を生み出す高付加価値製品が不可欠です。需要の変化を捉え、高付加価値な製品をタイムリーに送り出すには、その基盤として高品質なものを効率よく安定的に製造できる体制を整えておかなければいけません。このような考え方から、全社的な生産設備の合理化に取り組み、直近で言えば2016年に福山工場に化成品製造設備を新設しました。しかし決してこれがゴールではなく、収益性改善を目的とした生産設備の合理化は、これからもすべての工場において継続的・計画的に行っていく予定です。^(※2)

従来型の考え方をする人の中には、毎日のニュースを見ながら先行きに不安を覚える人もいるかもしれませんが、私は、やり方次第で必ずいい方向に向かう道はあると思っています。

社員一人ひとりの力を高め、より強い収益構造を創ることで、ヤスハラケミカルは、必ず明るい方向に向かうはずです。そして社員にもすべてのステークホルダーの皆様にも「今日よりも明日の方が明るい」と、そうしてもらえそうな会社にしていきたいと考えています。

ヤスハラケミカル株式会社
代表取締役社長

安原 稔 二 Teiji Yasuhara

(※2) 詳細はP.11 特集②「より強い収益構造の構築に向けた生産本部の取り組み」をご参照ください。

